

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下賀子 / 同行調査員 竹下公子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一緒にふれあい、笑顔のある家族的な暮らし」という開設当初からの理念を重視したものとなっている。地域密着型サービスとしての理念づくりが行われていない。	○	これまでの理念に加え、地域との交流を大切にし、地域の中でその人らしく安心して暮らしが継続できるような地域密着型サービスとしての役割を含めた理念づくりが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念や方針について、月1回の職員会議で話をしたり、年2回合同会議の折、理念の取り組み状況の評価も行なっている。 職員は日々の業務の中でお互いに気づきを出し合い、ケアの質の向上に向けた取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近所の商店で買い物をしたり、地元の中学校の職場体験学習の受け入れも行っている。又、施設の夏祭りに地域住民の参加を呼びかけるなど、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価を全員で行なっている。昨年の外部評価結果の改善項目についても、全職員で検討し改善に向けた取り組みが行なわれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの紹介や入居者の状況報告、家族会の報告、事故防止の取り組み報告などを行い、意見や要望を聞きサービスの質の向上に努めている。		

グループホームやまぶき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口とは法人の事務で手続きを行なっているため、担当者とは会う機会が少なく、積極的な関わりをもっていない。	○	市町村担当者と交流する機会を設け、ホームの方針や入居者の近況報告、現場の実情を共有しながら、サービスの質の向上に向けた連携を図ることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回「やまぶきだより」を発行し、入居者の生活状況を報告したり、面会時には日頃の様子を伝えている。遠方の家族には必要時電話報告している。金銭出納の写しも毎月郵送で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に声かけを行い、情報の交換や要望意見を聞いている。又、年2回接遇についてのアンケート調査を実施し、家族の意見を反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係を重視し、法人内での職員の移動は殆どない。退職者補充時は介護経験者を入れ、入居者や家族にも報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し、研修報告を作成している。職員会議で伝達講習も行い、情報を共有する仕組みをとっている。又、年2回法人内の全体会議の中で事例発表を行い、ケアの質の向上に向けた学習も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下のグループホーム連絡協議会に加入している。管理者は研修機会を利用し、他事業所の職員と情報交換を行い、ネットワーク作りに努めている。関連のグループホーム間で見学などの交流もあり、質の向上に励んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、管理者が自宅や病院に出向きホームの説明をしている。 入居に至る迄の期間中、本人や家族に見学してもらい、職員や他入居者との交流を図ることでスムーズに入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、野菜作り、毎朝の掃除機かけ、ちり紙折等、個々の入居者が得意分野を発揮でき、達成感を持てるよう支援しながら、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の希望や思いを聞いたり家族からの情報を得るなどして、本人の意向やペースに合わせた支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人家族の意見を把握し、月1回のモニタリング、部署会議の中で職員も意見を出し合いながら、入居者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に添った日課のサービスチェック表を作成し、毎日チェックされている。 1ヶ月毎に見直しを行い、個々の状態変化に応じ修正評価が行われている。 3ヶ月毎に計画も作成されている。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、病院受診、美容室の送迎、外出の支援を行っている。医療処置を受けながらのホーム生活の継続、終末期の入院の回避など、医療連携体制を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人及び家族の意向を最優先としている。家族が行けない場合や急変時は職員で対応している。又、協力医の週1回の往診や2ヶ月に1回の健康相談の時間も設けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師、看護師、職員間で情報交換を密に行い、往診で適切な医療処置を受けながら、万全の協力体制で看取りのケアに取り組んでいる。家族への説明も随時行なわれ、夜間の応援体制も確立されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇委員会や学習委員会を中心に、個人情報の取り扱いや、入居者のプライバシーを損ねないような対応の仕方について、毎月1回学習会を行い、日々注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日の望みやしたい事を把握し、起床や食事、入浴の時間をずらしたり、希望に添った支援が行われている。		

グループホームやまぶき

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の嗜好を聞きながら作成している。入居者と共に野菜を収穫したり、魚を買いに行ったり、準備から調理、後片付けまで皆で分担しながら楽しく行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてなく、入居者の希望通りに行っている。最低でも週2～3回は入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の希望や生活歴を考慮しながら、食事の準備、掃除、洗濯、ゴミ出し、園芸、ちぎり絵、はり絵を一緒に行う中で、職員は感謝の気持ちを伝える事も大事にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地内は毎日散歩コースとなっている。近所の商店へ週3回牛乳や魚を買いに出かけたり、週1回は近くの公園までの散歩、コスモスやアジサイの花見など外出の支援を行い、季節を感じてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中は鍵をかけず見守りながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防団の協力をもらい、年2回法人全体の合同避難訓練を実施している。公民館長にも協力依頼し参加が得られている。ホームでは毎月1回消防委員会を中心に、入居者を含めた非難訓練を実施している。スプリンクラーも全室設置され、災害時の備蓄もある。		

グループホームやまぶき

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。食事の摂取状況に合わせて食事形態も工夫している。十分なカロリーが得られない場合は医師に相談し、栄養補助食品を追加して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が玄関やテーブルに飾られている。また、入居者の作ったちぎり絵やはり絵なども壁に飾られている。キッチンやリビングの周りにソファや畳のスペースもあり、入居者がくつろげるような共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者と家族が相談しながら、テレビ、ラジオ、時計、ソファ、写真など好みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。